

帯広大谷高等学校

校長 大西正宏様

学校関係者評価委員会

委員長 山田敏明

2018年度帯広大谷高等学校学校関係者評価報告書（2017年度分）

この度、2018年度帯広大谷高等学校「自己評価報告書」（2017年度分）について、学校評価規程第16条に基づき評価を行いましたのでご報告いたします。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念・教育目標・学校目標について

親鸞聖人の本願念仏の教えを建学の精神としている。大いなる「いのち」に目覚め、人間として生きる喜びを見出すことを願いとしている。

この建学の精神により導き出された教育理念・教育目標等について、学園をあげて周知に努めている点、生徒と教職員が共通理解をし、様々な取り組みがなされている点が評価できる。

また、企画運営委員会及び教育体制推進委員会が中心となって、教育目標や学校目標が時代や社会の変化と合致しているかなど定期的な検証がなされている。変更がある場合には職員会議や総括会議の承認（共通理解）を経て実施されている点も評価できる。

評価領域Ⅱ 分掌について

学習指導においては、教科の会議や学習指導委員会(教科主任の会議)で学力向上について、精力的な論議が行われている。これは近年の教育力向上につながっていると推察され評価できる。

生活指導においては、建学の精神に基づく情操教育と各クラブ活動の顧問の指導が加わり、生徒たちは節度ある落ち着いた高校生活を送っている点が評価できる。また、学校を訪問した際の生徒たちの挨拶は形骸化されたものではないと感じた。

進路指導においては、進学では各種オープンキャンパスや相談会を積極的に案内したり、進路相談室と図書館に各校の案内や赤本などを閲覧可能にしている。また、今まで生徒が受験した学校の内容をデータベース化し、担任を通じてよりスムーズに情報提供ができるようにしている。就職ではハローワークやジョブカフェと連絡を密にし、生徒を多角的に指導できるように工夫している点が評価できる。

評価領域Ⅲ 管理運営について

理事会の運営においては、短期大学・高等学校・幼稚園の将来構想確立に向け、的確な意思決定機関

として機能している点が評価できる。

評議員会の運営においては、19名の委員各自の意見が反映され、適切な判断に基づいて行われている点が評価できる。

監事の業務においては、2名の監事が寄付行為の規定を遵守し、学園経営に適切な助言・指導を行っている点が評価できる。

校内運営においては、教育現場の運営は原則民主的に遂行されるべきもので、教職員のコンセンサスをもってより高い教育効果が期待できるものとする。しかしながら、現場の教員に学校経営の視野に立って判断を委ねるには限界があり、状況に合わせて適切な判断と助言を提示しながら民主的な決定を図ることが賢明であるとする。場合によっては、教頭が主催する委員会等に事前に校長の意思を伝達した上で諮問し、それに沿った決定を得る手段も必要とする。

評価領域Ⅳ 財務について

当該年度における高等学校の収支差額は4,876,331円の支出超過であった。支出超過となった要因は、校舎屋根の防水工事(8,800千円)、テニスコートの金網更新工事(8,100千円)といった臨時的な費用が発生したことによる。当初、12,338,000円の支出超過を見込んでいたが、学校法人費及び基本金組入額の減により支出超過が圧縮された。

職員の年齢構成が偏っており、今後2030年度に人件費のピークを迎える。あわせて現校舎も耐震補強を含む大規模改修または改築を必要としており、これらに対する資金確保が喫緊の課題であるが、一方で生徒減による収入減は避けられない情勢でもあり、財務に対するマイナス要因を多く抱えている。長年にわたり課題であった人件費の見直しについては、基本給と平均約3.7%引き下げるとともに定年年齢を63歳に引き上げることで労働組合と合意した。引き続き、授業料額の改定を視野に入れた収入確保策及び経費減による支出の抑制策について検討していく必要がある。

評価領域Ⅴ 改革・改善について

帯広大谷高等学校学校評価規程に基づいた自己評価、学年校務分掌等の総括会議、職員会議で、現状の課題を検証し、次年度に活かしている点が評価できる。

また、2003年から現在まで十勝管内私立高校の中で最も高い志願者数と学力レベルを維持している。今後の教育内容の充実に向けて、道内外の高校と大学の視察を行い、進学実績の向上に繋がる新たな取り組みをしている点が評価できる。

評価領域Ⅵ 学校評価アンケートについて

学校生活・授業においては、充実していると感じている。また、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われていると感じている。

進路指導においては、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われていると感じている。今後も受験方法の多様化に対応できるよう新しい情報をキャッチし、的確な進路指導を心がけていくと

している点が評価できる。

部活動においては、活発に行われていると感じている。今後も心身の健全育成のために部活動の充実を図っていくとしている点が評価できる。

いのちを大切にす教育においては、しっかり行われていると感じている。今後も「いのちの尊さ」と人間としての「生き方」をしっかりと教えていくとしている点が評価できる。

いじめ防止においては、ほとんどの生徒が、学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいると感じている。管理職、各学年、いじめ対策委員等一丸となり、いじめの早期発見に取り組んでいる点が評価できる。

以上のように、帯広大谷高等学校の教育活動に対して、およそ9割以上の生徒・保護者が満足している結果であることから教職員の取り組みが評価できる。

むすび

帯広大谷高等学校がさらに生徒及び地域社会から信頼される学校となるには、公立高校よりも質の高い教育活動を実践していく必要があります。20年前と比較すると、進学実績の向上、部活動の活性化が見られ、地域から信頼される学校になってきたと思います。今後も、生徒・保護者・時代のニーズに応えられるよう多角的な検討を期待しております。また、この報告書が、学校改革・教育活動改善等のために少しでもお役に立てれば幸甚です。今後の貴校の発展を衷心より念じ申し上げます。

以 上